



ひとつ下のプレゼン。

角南 北斗 (Web デザイナー)

★★★★☆ (27 件のカスタマーレビュー)

価格：¥ 0,000 (税込)

在庫状況 (詳しくは[こちら](#))：在庫あり。

この商品は、PC カンファレンス 2007 でお届けします。

商品の説明

プレゼンと聞いて、みなさんは何を思い浮かべますか。

私は「ビジネスマンが企画会議でクライアントを説得する」というイメージが真っ先に浮かんでいますが、全てのプレゼンがそうした「説得のため」のものかという点、そうではありませんよね。「共感」や「理解」のためのプレゼンもあります。プレゼンを「何かを伝えるもの」と考えると、自己紹介もプレゼン、出席の返事をする 것도プレゼン、愛するあの子への告白もプレゼンです。そう、プレゼンは日常的な行為であり、プレゼン力はコミュニケーション能力のひとつとも言える大切なものです。

ところで、プレゼンを学校教育の文脈で表現すれば「発表」になるでしょうか。考えてみれば私たちは、小学校の頃から「発表」という授業を何度も経験しています。資料の作り方や話し方のテクニック集など、プレゼン関係の本は数多く世に出回っています。一般に「プレゼンは場数」とも言われますから、小学生の頃からプレゼンに慣れ親しんでいる私たちのこと、あとは本でちょっとした知識や技術を付けさえすれば OK・・・でも実際は、プレゼンは相変わらず難しく、苦手意識がなかなか消えないものです。

プレゼンは何度やっても難しいと感じるもので、どんなに準備をしても完璧に満足できる結果には出会えないものです。しかし同じ「難しい」という実感でも、それが漠然とした感想なのか、できることを一つずつやった上での実感なのかでは、大きな違いがあると考えます。

プレゼンの勉強といっても何をすれば良いのか・・・という声を聞きますが、何をすれば良いのかわからないという時点で、何が原因でプレゼンがうまくいかないのかを分析できていない、と言えます。そして同時に「たぶんこんなもので伝わるのではないか」といった漠然とした気持ちがあるから、様々な要素をきちんと見直すことができないのではないのでしょうか。

自分の伝えたいことは簡単には伝わらない、という出発点に立てば、全ての要素を「どうしたら伝えられるか」という視点で捉え直すことができます。私たちは学校で何度も「発表の授業」というプレゼンを経験していますが、そういう視点で取り組んだことは案外少ないのではないのでしょうか。

より具体的に考えるために、学校の授業としての「発表」に私は3つの視点を提案しま

す。誤解していただきたくないのは、必ずこれをやるべきだとか、これをすればプレゼン力が向上するとか、そういった提案ではないということです。これはあくまで、自分の中にある「たぶん伝わるはずだ」という甘さを見直すための、きっかけにしていきたいというものです。

1：発表という授業の体質

発表の授業で気になるのが、聞く側にとって聞きたい内容でない、話す側にとって本当に伝えたい内容でない、という状況が当たり前になっていることです。そしてそのような場でのプレゼンの評価者は教師であり、聞き手であるクラスメートではありません。目の前の聞き手が評価者でないという特殊な状況下では、伝えることの難しさを実感しにくいのではないのでしょうか。

2：PowerPoint という選択

PowerPoint は柔軟な道具ですが、でもあくまで道具のひとつです。社会的にスタンダードなものを漠然と選んでしまうと、その流儀に乗っかってしまい、プレゼンの構成要素を自分で吟味することを怠りがちになるように思います。あえて PowerPoint を使わないという発想も、プレゼンを豊かにするアプローチの一つではないのでしょうか。

3：日本語に対する過信

日本で生まれ育つと、普段の生活では誰とでも言葉が通じて当たり前だと思いがちですが、案外言葉というものは伝わらないものです。日本社会も多言語化が進みつつあり、日本語自体もまた世代やコミュニティによって多様化しています。言葉に対して意識的に制約を課すことで、非言語によるアプローチに目を向けやすくなるはずです。

私の提案は「プレゼンではこうすべき」という正解ではありません。制約によって自分の中の前提に気づき、別の手段やアプローチを考えることを勧めるものです。プレゼンに王道なし。まずは教師が自己のプレゼンをしっかりと考え実践し、そして授業という実践の場をセッティングする。そうすれば、あなたのプレゼンも学習者のプレゼンも、「ひとつ上のプレゼン」になるのではないのでしょうか。

著者略歴

角南 北斗 (すなみ ほくと)

大阪府出身。大学院で日本語教育を学び、日本語教師を経て Web デザイナー・ディレクターに。サイト制作から現場の IT コンサルティングまで「教育的視点」を常に持ちながら活動する一方、情報教育の分野でも様々な提案を行っている。

Mail : hello@shokuto.com Web : <http://shokuto.com>

お知らせ

本発表の資料をカンファレンス終了後に下記 URL からダウンロードできるようにする予定です。発表をお聞きになれない方も、ぜひご覧いただき、コメント等いただければ幸いです。

<http://shokuto.com/pcc2007/>